つどい

・発　行・
京都障害者
スポーツ
振　興　会
題字　芝田　徳造

学生時代ボランティアで障害者スポーツにかかわって

～年賀状と電話で当時の思い出を聞きました～

毎月第１日曜日に府立体育館の「障害者スポーツのつどい」、前日の土曜日の夜は新聞「つどい」作り。第３日曜日は伏見港プールの「水泳のつどい」。10月から翌年３月まで毎週木曜日が「水泳教室」。春から８月までが「スポーツキャンプ」というように１年を通じて振興会のボランティアをしていました。多分大学に通った日数より、ボランティアをした日の方が多いのではないかと思います。今でも時々第１日曜日や、第３日曜日に「今頃の時間は京都では府立体育館や伏見港プールでスポーツのつどい」が行われているなあと懐かしく思い出すことがあります。一番印象に残っているのは参加者の笑顔です。自分の子どもの子育てが終わって分かったことは、参加者の笑顔は楽しい行事に参加している楽しさと、リーダーを信頼しきっているからの笑顔だったのかなと思います。私にとって振興会の活動に参加させてもらい充実した大学時代を過ごさして頂きました。ありがとうございました。

＊　＊　＊　＊　＊

学校に入校して直ぐに先輩から薦められて振興会の活動に参加しました。学校を卒業したら保育園か子どもの施設に就職しようと考えていたので、振興会の活動で障害のある子どもと関わることが出来ると思い（参加させてもらいました。

毎月の「スポーツのつどい」10月から翌年の３月まで週１回木曜日の「水泳教室」。２回木曜日の「キャンプ」。２月の「スキー・雪遊びのつどい」など沢山の行事に参加させてもらいました。どれも素敵な思い出です。

水泳教室とキャンプは自分が担当する子どもが決まっていたので、毎回教室が始まるまでにお母さんから子どもさんの家庭や学校での状況を聞きました。このことは先輩から教室が始まる時間までしっかり聞くように厳しく言われていました。１週間の間で家庭でパニックがあったり、自傷行為が激しかったと聞いたときは少し緊張したり、じっくり様子を見ながらプールに入りました。学校で障害児保育や心理学の授業で障害特性の説明を聞きながら、その障害のある参加者のことを思ったりしながらも、障害ばかり気にすると、ひとりの人間として見られないと厳しく話されたことも考えていました。

当時私が担当した子どもに逢いたいなと思いますが、可愛かった参加者も（失礼ながら）中年のおじさんやおばさんになっているのだと思うとなんだか不思議な気がします。今は学生のボランティアが少ないと聞きますが、私達は授業では得られない貴重な経験をさせてもらった者からすると、とても残念に思います。芝田先生や一緒に活動させてもらった先輩の方々本当にありがとうございました。

＊　＊　＊　＊　＊

初めてボランティアをしたころ、まだ何をしたらいいのかわからず、戸惑っていた私を救ってくれたのは、一人の少年でした。その少年は大きな声で楽しく元気良く話をしてくれて、私より数倍たくましく見えました。プールでのボランティアでしたが、一緒に水遊びをしたり、泳ぐ練習をしたり、皆でゲームをしたり、そんな活動をしているうちに少しずつ私の肩の力が抜けていったように思います。

その少年は全盲の障害がありました。ある時、彼が楽器を演奏する姿を見ました。その音色は今でも私の心に残っています。その後さまざまな障害のあるかたがたとかかわりましたが、私自身どれだけ生きる力を頂いたか分かりません。

（裏面へ続く）

行事予定	2月	10（火）	丹波障害者のスポーツのつどい	丹波自然運動公園	来月のつどいは
		11（水・祝）	雪あそびのつどい	花背山の家	
		15（日）	*京都マラソン2015*	京都市内コース	第498回
		21（土）	京都市ゆうあいボウリング大会	MK ボウル（予定）	
		22（日）	*京都卓球バレー協会交流大会*	京都市障害者スポーツセンター	
			城陽障害者スポーツのつどい	サン・アビリティーズ城陽	
	3月	1（日）	第32回視覚障害者京都マラソン大会	京都市西京極陸上競技場周辺	
		7（土）	第26回全国車いす駅伝競走大会開会式等	グランドプリンスホテル京都	3　／　15
		8（日）	第26回全国車いす駅伝競走大会競技・閉会式	京都市内駅伝コース	
		10（火）	丹波障害者のスポーツのつどい	丹波自然運動公園	
		14（土）	宮津障害者スポーツのつどい	宮津市民体育館	
	京都障害者スポーツ振興会ホームページ　TEL／FAX075－712－7010 http://web.kyoto-inet.or.jp/people/spo-shin/（2014年11月23日に一部更新）				第2日曜日

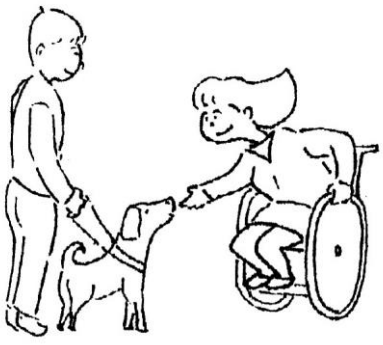
（表面より）

共に活動したり、話したり、指導を受けたりしたことが私の本当の“財産”になっているように思います。

私が残念に思うことは、障害のある人たちがさまざまな力を発揮する機会や場所、そして必要な援助がまだまだ不足していることです。

そのことは、障害者スポーツの分野においても同様です、とりわけ、障害が重度であるほど、その活動の場は制限されているようです。障害のある人たちがスポーツに取り組む、そのことはリハビリテーション、社会参加、自己実現などとても意義深いことです。あなたも活動に参加してみませんか。

（京都新聞１９９６年11月25日）



障害者水泳のつどい 4月から再開します

毎月第３日曜日
午後１時30分～３時30分
伏見港公園総合体育館
（京阪「中書島駅」南側）

４月19日
５月17日
６月７日（第１日曜日）
７月・８月は休み
９月20日

・介護が必要な方は、介護される方も一緒にプールに入って下さい

・参加費は無料ですが、更衣室のロッカー代（１００円）が必要です。

◇　◇　◇　◇　◇

【本の紹介】
「すべての人が輝く　みんなのスポーツを」
～オリンピック・パラリンピックの壁を越えて～
芝田徳造
（京都障害者スポーツ振興会顧問）
正木健雄
（日本体育大名誉教授）
久保健
（日本体育大教授）
加藤徹
（東京国際福祉専門学校講師）編
クリエイツかもがわ
１９４４円

目次

すべての人が輝くスポーツ現実への「提言」
１　輝け・拡がれ・障がい者スポーツ
２　鼎談　スポーツをすべての人の生きる力に
３　障がい者スポーツの今、課題、未来
４　真に「すべての人の」ものと言えるスポーツ・体育を求めて

新聞（夕刊）（神）　2002年（平成14年）5月1日　水曜日

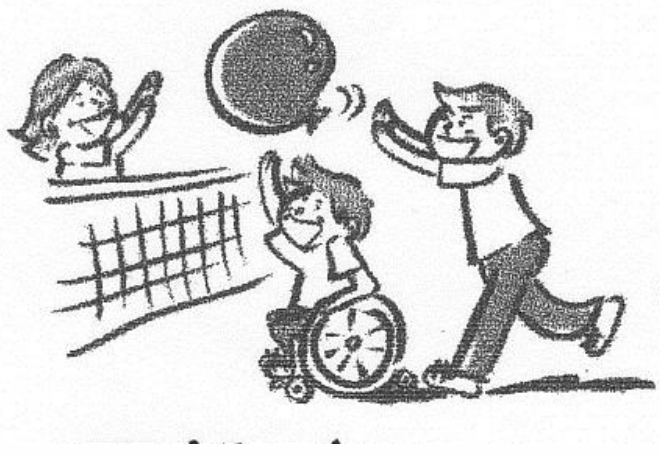
障害者スポーツのつどい “満350歳”を祝う

府立体育館
京都振興会

350回記念イベントで車いすバスケットボールを楽しむ参加者たち（府立体育館）

障害者スポーツの発展に寄与する目的で府立体育館と京都障害者スポーツ振興会が毎月第2日曜日に実施している障害者スポーツのつどいが350回を迎え、これを記念したイベントが4月14日、京都市北区の同体育館で開かれました。障害者スポーツのつどいは同体育館がオープンした翌年の1972年3月にスタート。初年度は1回だけの開催で参加者も69人でしたが、翌年度からは参加者も増加。今では年平均1500人前後が参加し、累積参加者数は約3万7千人にのぼっています。

350回記念イベントには、障害者や健常者、つどいを支えるボランティアら約250人が参加。開会式では同体育館の浅子一雄館長と、同振興会の内山茂生会長が「今日一日、元気にスポーツを楽しんでください」などとあいさつしました。

この日は第1、2競技場と会議室を使用。広い体育館は貸し切り状態です。全員で準備体操をしたあと、障害者たちはトランポリン、車いすバスケットボール、バドミントン、卓球、卓球バレーや輪投げ、ボウリングなどさまざまなスポーツに挑戦し、思う存分楽しみました。

休憩をはさんだあとは3グループに分かれて風船送りのゲームなどを楽しみ、風船は参加者にプレゼントされました。スタッフ兼参加者として車いすバスケットボールなどを楽しんだ亀岡市の伊崎正史さん(三八)は、下半身まひのため7年前から車いすで生活していますが「スポーツで汗を流すといやなことも忘れ気分もさわやかになる。3年前からこのつどいを手伝っているが、私自身も楽しんでいます。350回が400、500回と続くといいですね」と笑顔で話していました。